Japan Eco&Child Study

こんなことがわかってきました！

集計結果特集号

vol.8

あなたが たより

エコチル調査だより

エコチル調査だよりは、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の研究成果や進捗状況を参加者のみなさまへお知らせする情報紙です。

Japan Environment & Children's Study

http://www.env.go.jp/chemi/ceh/

第４回エコチル調査シンポジウム開催

エコチル調査のリクルートが開始されてからちょうど４年となる、2015年１月25日に日本科学未来館（東京都江東区青海）にて、第４回「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」シンポジウムが開催されました。このシンポジウムには一般の参加者に加えて、千葉や神奈川の調査参加者や各地のユニットセンター関係者も多数参加し、200人以上の参加者で会場が埋まりました。日本科学未来館の科学コミュニケーター本田ともみさんの司会進行により、はじめに川本俊弘コアセンター長から、調査が順調に進行していることが報告されました。続いてメディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）の大矢幸弘特任部長からアレルギーの最新情報を、山縣然太朗甲信ユニットセンター長から子どもの生育環境というテーマで、調査結果を交えてやさしく、かつ楽しく発表されました。その後、尾木ママこと教育評論家の尾木直樹先生から、子育てで大切にすべきことなどを熱く語っていただきました。

本号では、このシンポジウムでも紹介された、質問調査票の回答をもとに集計した結果について、特集号としてご報告いたします。

▲シンポジウム全体風景

▼ユニットセンターポスター展示　▼大矢先生（中央）と山縣先生（右）

質問調査票の年齢別回答者数（お母さん）

ここでご報告する結果は、参加者のみなさんから2014年11月30日までにご回答いただいた、１歳、１歳６か月、２歳の質問調査票をもとに集計したものです。早い時期からご参加いただいた方からは、この時点ですでに２歳６か月、３歳の質問調査票もご回答いただいていますが、まだ回収数が多くないため次回の報告で取り上げる予定です。

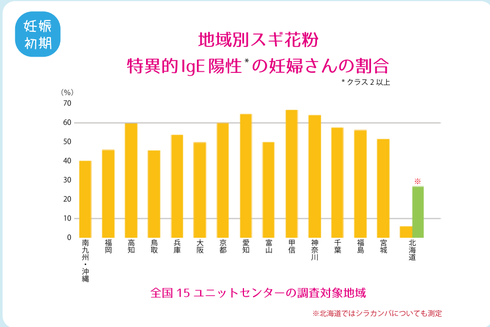
左の図は、ご回答いただいた方（お母さん）の人数を、出産時の年齢で５歳ずつに区分したものです。お母さんの年齢は30歳代前半が最も多く、１歳の質問調査票は58,790人、１歳６か月は40,680人、２歳では26,521人でした。すべてのみなさんの回答が揃うまでには、まだ時間がかかりますが、すでにこれだけ多くの回答数がありました。

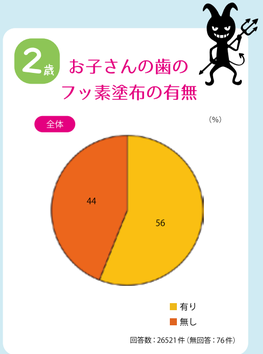
（注意）この結果は2014年11月30日時点の回答に基づく（データクリーニング前の）暫定的な結果です

地域による生活環境違いはあるの？

エコチル調査は全国15ユニットセンターで実施していますが、その調査地域は北海道から沖縄まで広く分布しています。地域によって気候や風土に限らず、様々な環境が異なりますので、それらが子どもの健康や発達に与える影響についても、調べることができます。スギ花粉の抗体陽性率については「エコチル調査だより vol.3」で、約3万人のデータをもとに報告しました。今回は、９万人を超えるほぼすべてのお母さんについてのデータを集計することができました。陽性者の率では、スギがほとんどない北海道は別としても、40%から67%と、地域によって大きな差があることがわかります。

2歳の時点でおたずねした歯のフッ素塗布の経験では、全体で56%のお子さんが経験有りでしたが、これも参加者の居住地区によって大きなばらつきがありました。子どもの歯へのフッ素塗布は、市区町村により積極的に実施しているところと、そうでないところがあるからです。フッ素塗布のこうした施策が、実際にどのくらい効果があるのかについても、長期的に一人一人の成長を追跡していく、このエコチル調査で明らかになるでしょう。





2014年8月20日までに採血した90578人の妊婦さんのデータ

（注意）この結果は2014年11月30日時点の回答に基づく（データクリーニング前の）暫定的な結果です

最新情報

2014年３月で参加者リクルートが終了し、昨年末には最後のお子さんも誕生しました。

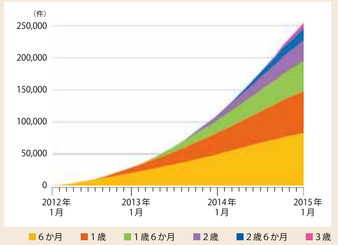
現在（2015年５月）は、６か月から３歳６か月までの質問調査票をお送りしていますが、みなさんからの回答総数は、すでに250,000件を超えました。

昨年10月からは、一部の方に詳細調査への参加依頼を開始しました。お子さんが１歳６か月になる参加者の中から、無作為に抽出した方にお便りで依頼をし、およそ半数近くの方から同意をいただいています。

2014年11月からは、詳細調査の最初の調査である訪問調査による環境測定を開始し、2015年４月からは、２歳児の医学的検査や精神神経発達検査が始まりました。

エコチル調査で明らかになっていくと期待しているいずれのことがらについても、お子さんたちが13歳になるまで調査にご参加いただいて初めて実現するものです。道のりの長い調査ですが、これからも引き続きご協力をお願いいたします。

質問調査票回収数



（注意）この結果は2015年２月時点の回答に基づく（データクリーニング前の）暫定的な結果です

お問合せ　エコチル調査コールセンター

フリーダイヤル 0120-53-5252

9:00～21:00（フリーダイヤル・年中無休）

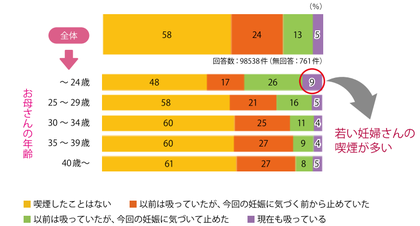
■発行

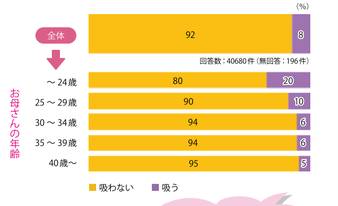
子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）コアセンター

〒305-8506　茨城県つくば市小野川16-2　国立研究開発法人国立環境研究所

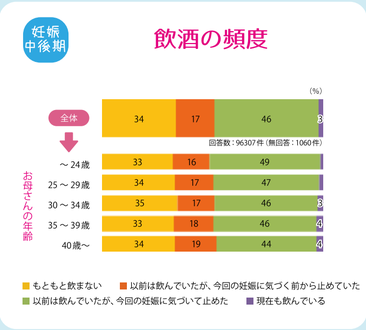
たばこ・お酒やっぱりやめるべき？

質問調査票でおたずねしたお母さんの喫煙について、妊娠初期とお子さんが１歳６か月の時の結果を比べてみました。妊娠する前まで喫煙していた人も、妊娠を機に多くは喫煙を止め、喫煙を続けているお母さんは全体の５％でした。しかし25歳未満（出産時の年齢。以下同様）のお母さんの喫煙率が９％と他の年齢より高く、妊娠に気づいてから止めた人をあわせると、25歳未満では35.6%、25歳から30歳未満で20.7%の人が喫煙していたことになり、若いお母さんの喫煙率が高い結果となりました。これは、日本たばこ産業（JT）が一般女性を対象に調査した20歳代の喫煙率11.1%（2013年）より、かなり高い数字です。次にお子さんが１歳６か月になった時の喫煙状況を図に示します。妊娠初期に比べ、少し喫煙率が高くなり（全体では８%）、ここでも25歳未満の喫煙率は20%と高くなっていました。お母さんの喫煙は、子どもの受動喫煙につながるので要注意です。妊婦の喫煙や子どもの受動喫煙の健康影響については、前号の健康コラム「タバコの無い社会で子育てをしませんか?」をご覧ください。





出産後の再喫煙も問題



エコチル調査に参加しているお母さんは、もともと３人に２人くらいの割合で飲酒経験がありました。左図を見ると、妊娠中後期も飲酒をしていた人は全体の３％で、ほとんどのお母さんは妊娠中の飲酒は控えていました。

妊娠中の飲酒は、胎児性アルコール症候群（顔面異常・中枢神経機能障害など）を引き起こすことが知られています。また、成長に伴って、精神保健面でも問題が生じるとも考えられています。これらはアルコール50ml（ビールなら２本弱）以上で発症の危険性が増すといわれていますが、飲んでも安心な量はわかってはいません。胎児はアルコールの代謝ができませんので、できるだけ飲まないようにすることが大切です。

（注意）この結果は2014年11月30日時点の回答に基づく（データクリーニング前の）暫定的な結果です

10万人の親子から考えるアレルギーについて

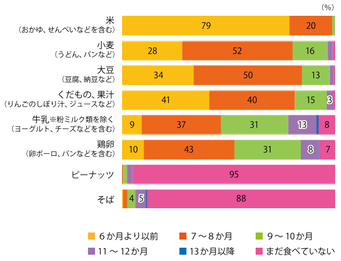
最近ではアレルギーが関係するぜんそくや花粉症が増え、子どもでは食物アレルギーやアトピー性皮膚炎が問題になっています。食物アレルギーと診断されたことがあるお子さんは、1歳までは7.0%、1歳6か月まででは11.7%、2歳まででは12.5%でした。アレルギーの感作*や発症の予防は、エコチル調査に参加するみなさんの、最も関心があることの一つです。

下図を見ると、米、小麦、大豆、くだものは1歳までにほとんど食べ始められていますが、ピーナッツやそばは、ほとんど1歳では食べられていませんでした。

食べないようにしている食べ物については、2歳の時の回答を見ても、えびやかになどの甲殻類、そば、ナッツ類などを食べないようにしているお子さんが多く、アレルギーの原因になりやすいといわれる食品の食べ始めが遅い傾向が見られました。

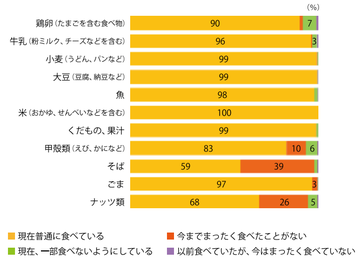
*感作：体内に抗体ができ、アレルギー症状を起こす準備ができること

1歳 食べ始めた時期（離乳食を始めている子ども）



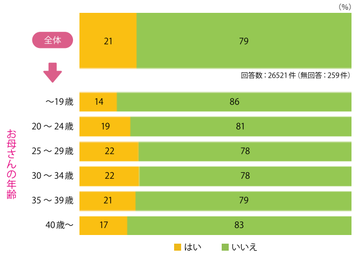
回答数：58418件（無回答：102～1183件）

2歳 食べないようにしている食べ物



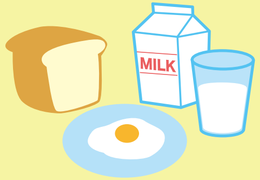
回答数：26521件（無回答：198～260件）

2歳 医師の指示以外で特定の食べ物を食べないようにしたことがありますか



特定の食べ物を食べないようにしている人の中には、すでにアレルギー症状が出て、医師から避けるように指示を受けている人も含まれていますが、医師の指示がなくても避けているという人も21%おり、ほとんどの人はアレルギーが心配という理由でした。

食べ始めの時期を遅くする（＝感作の時期を遅らせる）ことが、アレルギーになりにくくするのか、その逆なのか、エコチル調査でこれから明らかにできると考えています。



（注意）この結果は2014年11月30日時点の回答に基づく（データクリーニング前の）暫定的な結果です

子どもと関わる時間 どうしてる？

質問調査票では、お子さんとの過ごし方について、おたずねしています。ここでは2歳の質問調査票から、いくつかの結果を紹介します。

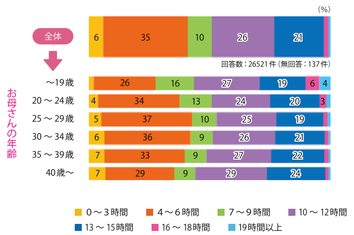
ふだん何時間くらいお子さんと一緒に過ごしているかをおたずねしました。全体では、1日あたり4～6時間が最も多く、9時間までと10時間以上が半々でした。また、お母さんの年齢によって、子どもと過ごす時間に違いがあることもわかりました。

絵本の読み聞かせは、子どもの発達にとって良いことだといわれています。2歳では、1歳の時より読み聞かせの機会が少し増えていました。また年齢別に見ると、若いお母さんの方が読み聞かせの機会が少ない傾向がありました。

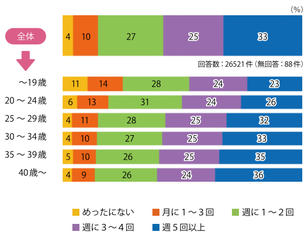
お子さんと一緒にいる時に、パソコンや携帯電話などをまったく使っていないお母さんは、全体で20%いましたが、若いお母さんほど使う時間が長い傾向であることがわかりました。子どもと一緒にいる時に携帯電話などを使っていることが、親子の関わりや子どもの発達にどのような影響があるのか、エコチル調査でも明らかにしたいと考えています。

日本小児科学会などからは、子どもにテレビなどを見せる時間は、1日に2時間までという提言がされています。ただし、これにはしっかりした科学的根拠がありません。こちらについてもエコチル調査で、より正確な提言ができるような成果が得られると期待しています。

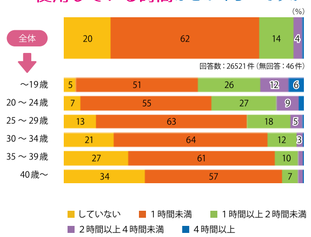
2歳 ふだんの1日、お子さんはあなたと何時間くらい一緒に過ごしていますか（お子さんの睡眠時間は除く）



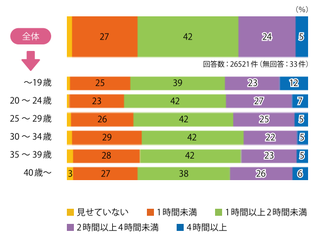
2歳 お子さんに絵本を見せながら話しかける機会はどのくらいありますか



2歳 お子さんと一緒に過ごしている時間のうちあなたがパソコン、携帯電話、携帯情報端末や電子ゲーム機などを使用している時間はどのくらいですか



2歳 ふだんの1日、お子さんにテレビやDVDなどを何時間くらい見せていますか

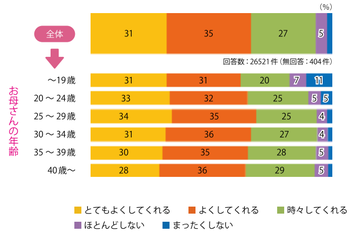


お父さんの育児への協力度について、回答者であるお母さんから見た結果を図で示します。若いお母さんほどお父さんが協力してくれないと感じている割合が高く、20歳未満のお母さんでは18%がまったく、あるいはほとんど協力してくれないと回答していました。対して、とてもよくしてくれるという割合には、年齢による違いはあまりありませんでした。

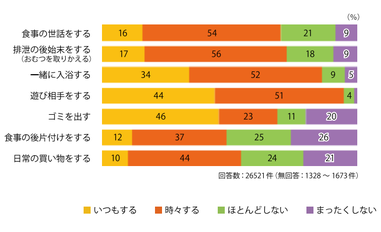
育児や家事に関しては、お子さんの遊び相手や入浴、ゴミを出すことをいつも担当しているお父さんの割合が高くなっていました。

お父さんの育児や家事に対するお母さんの満足度も、協力の度合いと同様、お母さんの年齢が若いほど不満の割合は高くなっていました。ただし、満足している割合もお母さんの年齢が若いほど高く、年齢が高いほどお父さんに期待するレベルも高くなるようです。

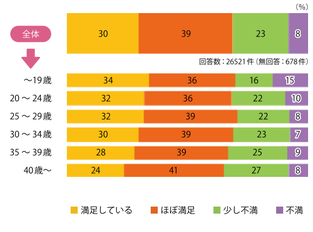
2歳 お父さんの育児への協力度



2歳 育児や家事のお父さんの分担状況



2歳 お父さんの育児や家事に対するお母さんの満足度



（注意）この結果は2014年11月30日時点の回答に基づく（データクリーニング前の）暫定的な結果です